



みずの のぶお
水野 信雄さん(75歳) 愛西市町方町

新しい栽培技術にチャレンジ

愛西市に住む水野さんは産直へ出荷を始めて2年目を迎えます。以前から家庭菜園をしていますが、専門的な知識を身につけるため、就農塾へ入塾しました。実際に出荷を行うようになり、販売を意識した栽培は全く違うことが分かったと話します。「味はもちろんです。鮮度管理や出荷のタイミング、パッケージング、単位面積当たりの収量など、様々な技術や知識が売り上げに繋がるということを実感しました」。年間で15品目以上の作物を育て、栽培の管理を行うため、栽培スケジュールを作り、月別・週別に畑のどこで、何を栽培するかを地図に示してまとめています。資料には就農塾で学んだ知識や農薬の情報、新たな気づきなども書き込んで、情報を常にアップデートしています。

現在は就農塾で学んだ知識を活かしてオクラやナスの長期栽培に挑戦しています。オクラは7月から収穫が始ま



自作のスケジュール表を見る水野さん。農協でもらった農薬の一覧なども確認をしやすいように栽培している作物別にまとめています。

りましたが、10月頃まで続けられそうだと話します。オクラの木は8月中旬の時点で背丈ほどの高さになっていました。「7月に早期出荷を行ったトウモロコシが予定通り販売できた時に、勉強のやりがいを感じました。オクラやナスも、学んだことが収量や売上に繋がっていくのがとても楽しいです」。

さらに今年から加工用トマトの生産部会にも参加し、食品メーカーであるコーミに、加工用トマトを出荷しています。きっかけは就農塾を担当する職員の紹介でした。出荷するトマトは品種や農薬、作業の時期などもしっかりと決められています。「勉強を始めてまだ2年目。専門の方達に混ざっての出荷は大変でしたが、窓口となっている職員をはじめ、色々な人に助けられました。来年はこの経験を活かして、もっと良いものを作りたいです」と話します。

水野さんにとって、就農塾は新しい知識を学べる場であると同時に、新たな出会いの場でもあります。就農塾では塾生が一年間協力して農場の管理を行い、採れた野菜はみんなで試食します。仲間との交流が水野さんの楽しみの一つです。「農業をきっかけにできた多くの繋がりを大切にしながら、生涯学び、アップデートを続けていきたいです」と意気込みを語ります。9月からはサトイモやニラの収穫が始まります。